

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	無	申請総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	かぶしきがいしゃよろずきょうげん		団体ウェブサイトURL	
	株式会社萬狂言		<a href="https://yorozukyogen.jp">https://yorozukyogen.jp</a>	
代表者職・氏名	代表取締役 野村万蔵			
制作団体所在地	〒	170-0013	最寄り駅(バス停)	東京メトロ有楽町線東池袋駅
	東京都豊島区東池袋5-7-4 マーブル東池袋7階			
電話番号	03-6914-0322			
ふりがな 公演団体名	よろずきょうげん		団体ウェブサイトURL	
	萬狂言			
代表者職・氏名	和泉流狂言野村万蔵家当主 九世野村万蔵			
公演団体所在地	〒	170-0013	最寄り駅(バス停)	東京メトロ有楽町線東池袋駅
	東京都豊島区東池袋5-7-4 マーブル東池袋7階			
制作団体 設立年月	2011年9月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表取締役 野村万蔵		〈萬狂言〉団体構成員 30名 主な構成員/(名誉会長)野村萬 (幹事)野村万禄、小笠原由禰、能村晶人、野村万之丞	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名		昼間 則子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名		大矢 隆啓
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	<a href="mailto:hiruma@yorozukyogen.jp">hiruma@yorozukyogen.jp</a>			

<p>制作団体沿革</p>	<p>かつて加賀前田藩で狂言棟取役をつとめた家柄で、約300年の歴史をもつ和泉流狂言野村万蔵家を母体とする。  1995年1月に「萬の会」を設立。以後、毎年東京をはじめ関東・北陸・関西・九州など全国各地で公演活動を展開する。海外公演にも多数参加。  2000年1月「萬狂言」に改め、2011年9月株式会社を設立。  (年間自主公演、東京4回、大阪・福岡・金沢各1回が定着)  2022年文化庁芸術祭大賞を受賞。</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●葛飾区小学生狂言鑑賞教室(1993年より毎年)  演目:「盆山」「口真似」「柿山伏」「附子」など</li> <li>●川崎市立新作小学校(国語科)狂言ワークショップ(2003年より毎年)  演目:国語教科書に準ずる内容(「柿山伏」など)のワークショップ</li> <li>●十文字中学校狂言鑑賞教室(隔年)  演目:「盆山」「附子」など</li> <li>●山崎学園富士見高校狂言鑑賞教室(1990年より毎年)  演目:「柿山伏」「附子」「蝸牛」「萩大名」など</li> </ul> <p>○静岡大学教育学部塩田研究室依頼 プロとの遠隔授業(2019年)  「静岡市立永田西小学校6年生×狂言師」 子どもたちが演じる「柿山伏」についてプロが感想やアドバイスをしたり、子どもたちからの質問に答えるなど、双方向でコミュニケーションがとれるビデオ電話により遠隔授業を行なった。 ほかに全国各地で多数開催。年間50ステージ以上。</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>2009年 長崎県立虹の原養護学校(本物の舞台芸術体験事業)  2010年 広島県立広島中央特別支援学校(子どものため舞台芸術 巡回公演)  2018年 北海道美唄養護学校(文化芸術による子供の育成事業 巡回公演)  2022年 大阪府立交野支援学校四条畷校(文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演)</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p><a href="https://youtu.be/PI1M2f25TrM">https://youtu.be/PI1M2f25TrM</a></p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 萬狂言 】

対象	小学生(低学年)	○	/	
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	狂言鑑賞教室～狂言って面白い！			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>【小学校・中学校 共通】 狂言「柿山伏」 狂言「附子」</p> <p>【中学校のみ】 語「奈須与市語」 ※一部抜粋</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし		該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	内部保有
演目概要	狂言「柿山伏(かきやまぶし)」「附子(ぶす)」ともに、小学校国語教科書に掲載されていることが多く、普段の授業と連動した取り組みも可能です。中学生では本格的な古典の学習が始まることを考慮し、「奈須与市語(なすのよいちがたり)」の一部を実演します。どの演目もわかりやすいですが、演目鑑賞のみでなく、解説ナビゲーターのお話しでさらに理解が深められるよう工夫しています。			
演目選択理由	狂言は少ない道具やセットで演じ、結末が明示されない舞台芸術です。そのため、「柿山伏」では実際には舞台に登場しない柿の木や柿の実がどんな形をしているのか、「附子」では黒い塊がどのようなものなのか、そして最後に追いかけられながら退場する登場人物たちがその後どうなったのか、子どもたち一人一人の頭で「想像」しながら鑑賞することで、発想力を育むことができる演目であると考え、選択しました。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	<p>【小学校・中学校共通】 事前ワークショップに参加した子どもたちは、狂言小舞「兎」の舞を練習します。本公演の冒頭解説の中で、プロの狂言師の語にあわせ代表児童生徒に舞を舞う共演をします。代表の児童生徒には、本格的な白足袋・着物・袴も着てもらおうと気持ちも高まります。</p> <p>【小学校のみ】 本公演では「柿山伏」ででてくる、山伏の祈りのセリフ(ぼうろんぼうろん)を会場全体で練習します。ワークショップに参加していない学年にも狂言に親しむ機会を作ります。</p>			
出演者	<p>萬狂言一門から狂言師4名と、ナビゲータ役(俳優・芸人など)1名 野村万禄、小笠原由禰、能村晶人、炭哲男(以上、重要無形文化財総合指定保持者)、 野村万之丞、野村拳之介、山下浩一郎、河野佑紀、上杉啓太、石井康太、吉住謙、吉良博靖、杉山俊広、 小笠原弘晃、清水宗治、中尾史生、炭光太郎、から編成(以上狂言師)。ナビゲータ役は、マセキ芸能社から1名予定。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む	出演者: 5 名	運搬	積載量: t	
	スタッフ: 2 名		車長: m	
	合計: 7 名		台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	無	前日仕込み所要時間		時間程度	
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	9:30	9:30～12:00	13:30～15:00	10	15:00～16:30	16時30分
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。						

本公演 実施可能日数目安  ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
					10日	
	11月	12月	1月	計	35日	
	10日	5日	10日			
※平日の実施可能日数目安をご記載ください。						

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	3～4人
		鑑賞人数目安	300人



公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



## 【公演団体名 萬狂言 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	15～100人 ※学校のご希望がある場合はご相談ください。
ワークショップ 実施形態及び内容	<p>体育館や多目的室など広いスペースで、狂言の体験をメインにしたワークショップを行ないます。</p> <p>○お話 狂言の歴史や特徴等について、分かりやすく説明します。</p> <p>○基礎稽古の体験 稽古始めの挨拶(正座でお辞儀)／狂言の美しい姿勢(まっすぐな姿勢と視線)／ 発声(遠くへ届く声を出す)／歩き方(摺り足)／喜怒哀楽の表現(笑う、泣く)／ 動物の鳴きまね、動き方、木を切る型など、狂言の豊かな表現方法を実際に身体を動かして感じて もらいます。</p> <p>○本公演共演内容の稽古 小舞「兎」の話と舞の練習。曲自体は通して1分と短いものですが、小舞は昔の日本で流行していた ダンスとも言えます。現代の激しいリズムで早く動くことは全く違った、ゆったりとした身体の使い方 や、美しい姿勢を保ったまま舞う舞の型を体験してもらいます。</p>		
ワークショップの ねらい	<p>狂言について、社会科や国語科で知識として学ぶ機会は多くあると思いますが、実際にどのような演技 をするのか生でみる機会は少ないと思います。そこでワークショップでは、子どもたちによる狂言の動きや 発声の体験を重視することにより、芸能としての狂言の本質を体験することを目的とします。</p> <p>また、基礎稽古である正座での挨拶、美しい姿勢などは、狂言の演技に限ったものではなく、子どもたち の日常生活にもつながる所作です。ワークショップで学んだ内容を子ども一人一人が日常(家庭)に持ち帰 り、「こうするときれいに正座ができるよ」「こんなことを知ったよ」と誰かに話したくなるような、他人とのコミュ ニケーションの一助になるワークショップにしたいと考えます。</p>		
その他ワークショップに 関する特記事項等			

本事業への申請理由

【公演団体名

萬狂言

】

## ①本事業に対する取り組み姿勢

狂言は能とともに能楽としてユネスコ無形文化遺産に登録されている日本の宝です。古典芸能というだけでどうしても、堅苦しい、難しいのではないかと、印象を持たれますが、萬狂言で学校公演を行なう際は、常に児童生徒の目線に立ち、わかりやすく狂言を伝えることに日々努力しています。古典の言葉や所作によるお芝居を、「現代に置き換えるということ」、「今みんなが身近に使っているものは、その昔はこういうものだった」というように、子供たちがわかる言葉、例えを用いて解説を進めます。常に子供たちの反応にあわせた柔軟な対応力、また教育現場の先生の立場からの意見やリクエストも伺いながら、効果的なワークショップ、本公演になるよう取り組み、効果的であった事象の情報は狂言師同士でも共有し、質の高さを保ちます。

教育の場では、ICTの活用やデジタルな教材が普及していく中で、狂言は生身の人間の声や身体で表現するもので、力強さも伝わります。子供たちが狂言の体験や鑑賞を通して、新しい発見や新しい感覚、想像力の大切さを感じてもらうことで、豊かな人間性の醸成になることを願います。

なお、狂言で演じられる話の内容は、偉そうにしているでも実は力のない山伏や、主人の留守中に言いつけをやぶる召使い、物覚えが悪いのに偉ぶっている大名といった、庶民的な登場人物たちが多く、たいいてい物語の結末は悲劇的にはなりません。その根底には「大らかに明るく生きることの大切さ」があり、そうした感覚も子供たちに伝えていきたいことのひとつです。

## ②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

学校それぞれの状況、児童・生徒の様子(おとなしい、元気がいい、武道が盛ん、部活動の状況など)に応じて、子どもたちの心に残る事業となるよう努めます。

合わせて、ワークショップの休憩時間や、公演後に学校を退出するまでの時間には、できる限り子どもたちがプロの狂言師に話しかけやすい雰囲気をつくり、実演家を身近な存在として受け入れてもらえるようにしたいと思います。

ワークショップ、本公演ともに先生方のご理解と協力は必須であります。ご要望があれば、児童・生徒用に限らず先生用として、事前の資料提供(動画や書物)をすることや、メールやZoomなどのオンラインを活用した打合せ、狂言師との意見交換など、可能な範囲で協力いたし、先生方に安心して事業を受け入れていただけるようにします。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫